

## ●国がモデル地域指定

「照葉樹林文化」の町で知られる綾町は近年、手づくりの里、伝統工芸品の町としても全国に広く知られるようになった。

伝統工芸では、絹織物や染色、ガラス工芸をはじめカヤ、ケヤキなどで作る碁盤、木工芸品、陶芸、竹工芸がよく知られる。それらの伝統工芸品を一堂に展示しているのが「綾・国際クラフトの城」。一九八六（昭和六十一）年に完成した「綾城」とともに、町内が一望できる小高い台地に設けられている。

綾城入り口となる大手門の中に構えられたクラフトの城は、一見武家屋敷風の重厚な木造建築になっている。本館に入ると一階が六百八十八平方メートル、中二階は百四十四平方メートルの合わせて七百三十二平方メートルという広いスペースで、床板は腐食に強いユス材で統一、柱は四十センチ角のケヤキやツガ材が使用され、町産の銘木がふんだんに使

われている。まさに「クラフト工芸」の殿堂にふさわしい施設である。

展示品は綾紬（つむぎ）、絹織物、木工芸品、陶芸、ガラス工芸、竹刀などの竹工芸、中央に名産のカヤの碁盤などを中心に展示、即売もしている。

本館の別棟に体験学習館がある。本館の庭先に井戸、陶器のガス窯の炉があり、陶芸教室、染色教室のある木造平屋建ての体験学習館（二百八十六平方メートル）へと続く。

学習館では、児童や工芸に興味のある人たちを対象に、織物、染色、陶芸の三つのコースから選べる工芸体験ができる。ここでは陶芸、織物のプロの工芸家が習いたい人たちに直接指導、創作活動の喜びを体験できる内容となっている。最近では宮崎市など近郊から、伝統工芸に触れる喜びを求めてくる若い人たちの姿も目立つ。

綾町は八〇（同五十五）年、工芸品をつくることを目的にした工芸コミュニティ事業のモデル地域として国の指定を受けた。工芸家と町民が一体となり、工芸品開発に取り組みむため、以来、優良工房の受け入れにも力を入れながら「手づくり工芸」の町づくりに努めてきた。

こうした努力が毎年秋に開いている「綾町工芸まつり」となって表れ、手づくりの里として、全国的に今最も注目を集めている町になる原動力になった。まつりには町内で生産される工芸品や、市場性のある生活用品、手づくりの自然食品が集められる。展示・即売には町内外から多くの人が訪れ、町最大のイベントになっている。

三又 喬



「綾・国際クラフトの城」。伝統工芸品を一堂に展示